



ドメインの設定

- [ドメインの設定の概要 \(1 ページ\)](#)
- [ドメイン要件の構成 \(4 ページ\)](#)
- [ドメインのタスク フローの設定 \(5 ページ\)](#)

ドメインの設定の概要

IM and Presence Domain ウィンドウに以下のドメインの種類が表示されます。

- 管理者が管理する IM アドレス ドメイン。これらは、手動で追加されたが、どのユーザにも割り当てられていない内部ドメインか、Sync Agent によって自動的に追加されたが、その後でユーザのドメインが変更されたために使用されていない内部ドメインです。
- システムが管理する IM アドレス ドメイン。これらは、ユーザが展開で使用し、手動または自動のいずれでも追加できる内部ドメインです。

ドメインが [IM and Presence ドメイン (IM and Presence Domain)] ウィンドウに表示されている場合は、ドメインは有効になっています。ドメインを有効化する必要はありません。ローカル IM アドレス ドメインは、手動で追加、更新、削除が可能です。

2個のクラスタでドメインを設定することはできますが、ピアクラスタのみで使用されている場合に限ります。これは、ローカルクラスタのシステムが管理するドメインとして表示されますが、ピアクラスタで使用中等であると識別されます。

CiscoSync Agent サービスが夜間監査を実行し、ローカル クラスタ、およびクラスタ間が設定されている場合はピア クラスタの各ユーザのディレクトリ URI を確認して、一意のドメインのリストを自動的に構築します。クラスタ内のユーザがそのドメインに割り当てられると、管理者管理ドメインからシステム管理ドメインに変更されます。クラスタ内のユーザがドメインを使用しなくなった場合は、ドメインは管理者管理のドメインに戻ります。

ドメイン設定例

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービスは、任意の数の DNS ドメインへの柔軟なノード展開をサポートします。この柔軟性をサポートするには、展開内のすべての

IM and Presence サービス ノードにそのノードの完全修飾ドメイン名 (FQDN) に設定されたノード名が必要です。以下の IM and Presence Service 向けノード展開オプションの例を説明します。

- 別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ複数の DNS ドメイン
- 別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ単一クラスター
- DNS ドメインが Unified Communications Manager のドメインと異なる単一クラスター

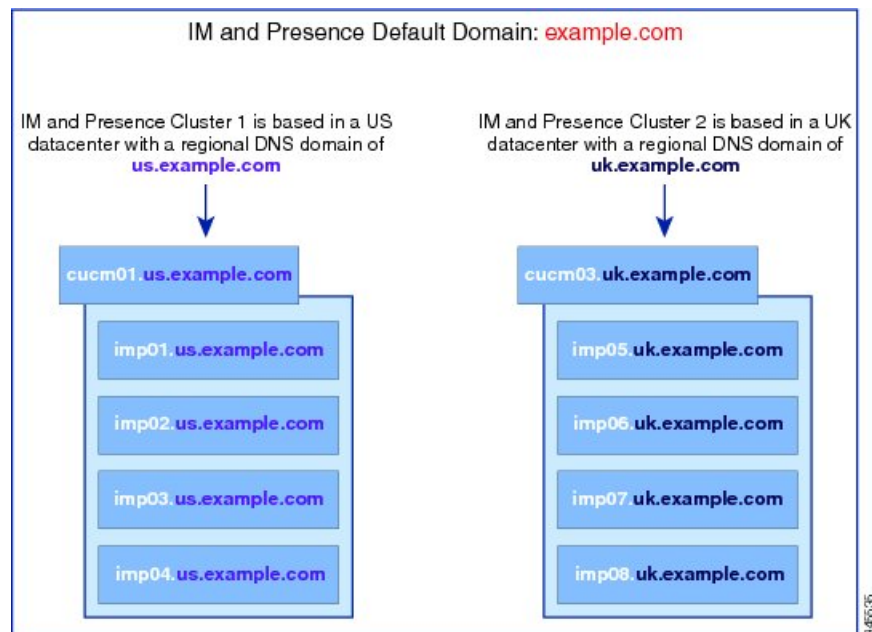


(注) ある IM and Presence サービス ノード名がホスト名だけに基づいている場合、すべての IM and Presence サービス ノードが同じ DNS ドメインを共有する必要があります。

システムによって、IM and Presence サービス のデフォルト ドメインまたは DNS ドメインと一致するように設定される他の IM ドメインは必要はありません。IM and Presence サービス 展開に共通のプレゼンス ドメインを配置し、ノードを複数の DNS ドメインに展開することができます。

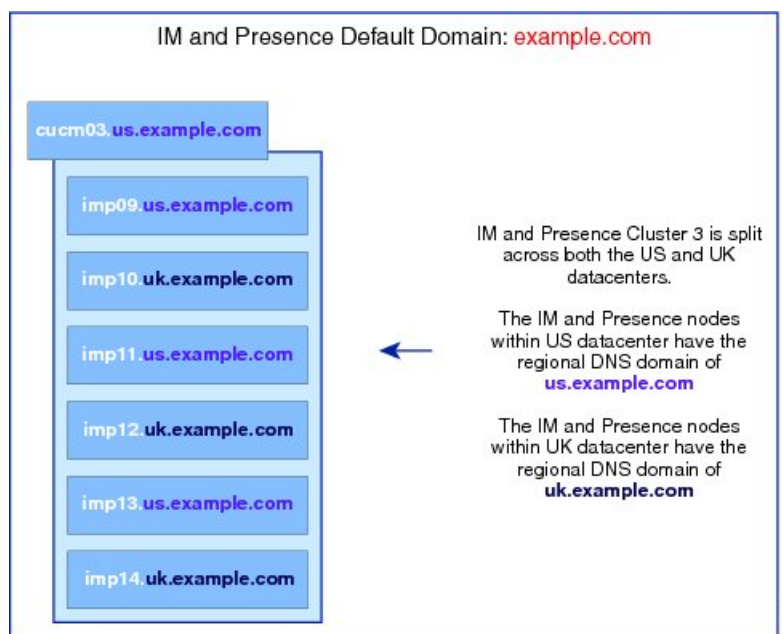
別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ複数の DNS ドメイン

IM and Presence Service は、ピアの IM and Presence Service クラスターを構成するノードとは異なる DNS ドメインまたはサブドメイン内の 1 つの IM and Presence Service クラスターに関連付けられたノードをサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ単一クラスタ

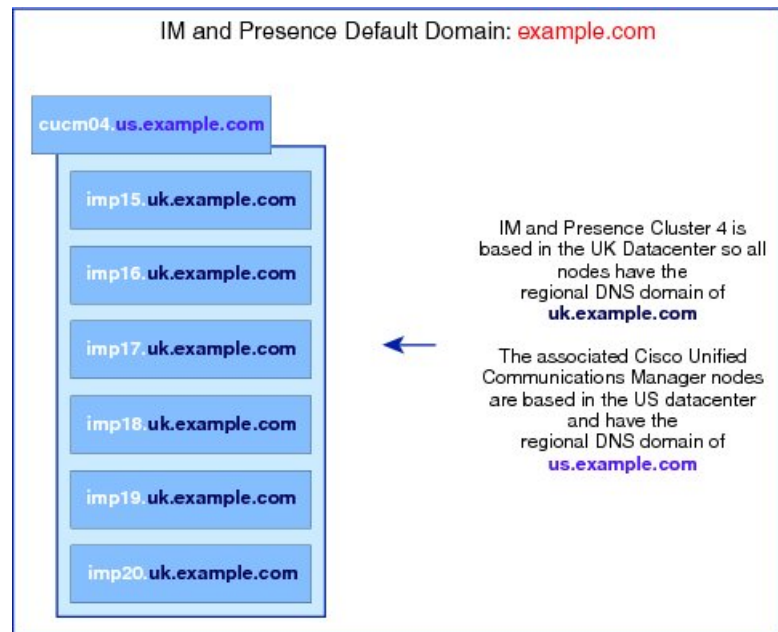
IM and Presence Service は、複数の DNS ドメインまたはサブドメインに展開された IM and Presence Service クラスタ内へのノードの配置をサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



- (注) ハイアベイラビリティは、プレゼンス冗長グループ内の2台のノードが別々のDNSドメインまたはサブドメインにあるシナリオでも完全にサポートされます。

DNS ドメインが Unified Communications Manager のドメインと異なる単一クラスタ

IM and Presence Service は、関連する Cisco Unified Communications Manager クラスとは異なる DNS ドメインへの IM and Presence Service ノードの配置をサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



- (注) Cisco Unified Communications Manager との Availability 統合をサポートするには、**CUCM Domain** の SIP Proxy サービス パラメータが Cisco Unified Communications Manager クラスタの DNS ドメインと一致する必要があります。

デフォルトでは、このサービス パラメータは IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの DNS ドメインに設定されています。IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの DNS ドメインが Cisco Unified Communications Manager クラスタの DNS ドメインと異なる場合、Cisco Unified Communications Manager のドメインを使用するようにこのサービス パラメータを編集する必要があります。

ドメイン要件の構成

- この機能を使用するには、IM and Presence Service および Cisco Unified Communications Manager のすべてのノードおよびクラスタが複数のドメインをサポートする必要があります。IM and Presence Service クラスタ内のすべてのノードが Release 10.0 以降を使用して実行していることを確認します。
- アドレス用ディレクトリ URI が設定されていることを確認します。詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html> で、*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager* システム設定ガイドの「URI ダイヤリングの設定」を参照してください。

ドメインのタスク フローの設定

IM and Presence Service 向けにドメインを設定するには、このタスクを完了します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ハイ アベイラビリティを無効にする (6 ページ)	[ハイ アベイラビリティ] が有効化されている場合は、無効にします。デフォルト ドメインを変更する場合は、一時的にサービスを停止する必要があります。ハイ アベイラビリティが有効のままサービスを停止すると、システム フェールオーバーが発生します。
ステップ 2	IM and Presence Services の無効化 (6 ページ)	ドメインを変更する前に、重要なサービスを停止させます。
ステップ 3	IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定 (7 ページ)	IM and Presence Service クラスタ のデフォルト ドメインの値を設定します。この手順は、DNS および非 DNS 展開で適用可能です。
ステップ 4	以下のタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> IM アドレス ドメインの追加または更新 (9 ページ) IM アドレス ドメインの削除 (10 ページ) 	オプション。ローカル クラスタの管理者管理のドメインを追加、編集、削除するときのみ、このタスクを実行します。
ステップ 5	XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 (11 ページ)	TLS XMPP 連携を使用している場合、新しい XMPP クライアントおよび TLS 証明書を生成する手順に進みます。
ステップ 6	IM and Presence Services の起動 (11 ページ)	ドメインの設定が完了したら、サービスを再起動します。
ステップ 7	プレゼンス冗長グループに対するハイ アベイラビリティの有効化 (12 ページ)	ハイ アベイラビリティが設定されている場合、再度有効にします。 (注) ハイ アベイラビリティを有効にする前に、再起動したサービスがすべてのクラスタ ノードで稼働しているかを確認します。

ハイアベイラビリティを無効にする

ハイアベイラビリティが設定されている場合、デフォルトドメインを設定する前に、各プレゼンス冗長グループにおいてハイアベイラビリティを無効にしなければなりません。デフォルトドメインのサービスを停止する際に、ハイアベイラビリティが有効になっている場合、フェイルオーバーが発生します。

始める前に

各プレゼンス冗長グループの各クラスタノードのアクティブユーザ数を記録します。この情報は、Cisco Unified CM IM and Presence の (**System > Presence Topology**) ウィンドウに表示されます。この番号は、後にハイアベイラビリティを再度有効にする際に必要となります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration のユーザインターフェイスから、[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] を選択します。
 - ステップ 2** 検索をクリックして、グループを選択します。
 - ステップ 3** [プレゼンス冗長グループの設定 (Presence Redundancy Group Configuration)] ウィンドウで、[ハイアベイラビリティを有効にする (Enable High Availability)] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 5** 各プレゼンス冗長グループに対して、この手順を繰り返します。
 - ステップ 6** 完了後、さらに変更を行う前に、新しいHA設定がクラスタ全体にわたって同期されるまで、少なくとも2分待機します。
-

次のタスク

[IM and Presence Services の無効化 \(6 ページ\)](#)

IM and Presence Services の無効化

この手順を使用して、デフォルトドメインに変更を加える前に、IM and Presenceのサービスを停止します。クラスタ内のすべてのノードでこの手順を実行します。

始める前に

ハイアベイラビリティが無効になっていることを確認します。詳細については、[ハイアベイラビリティを無効にする \(6 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] リストから、サービスを非アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスが開始されていることを確認します。
 - Cisco Client Profile Agent
 - Cisco Sync Agent
 - Cisco XCP Router
- ステップ 4 [Stop] をクリックします。
- ステップ 5 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスが開始されていることを確認します。
 - Cisco SIP Proxy
 - Cisco Presence Engine
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8 これらのサービスを無効にしたすべてのノードのリストを作成します。デフォルト ドメインの変更が完了したら、サービスを再起動する必要があります。

次のタスク

IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定 :

- [IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定 \(7 ページ\)](#)

あるいは、デフォルト ドメインがすでに設定されている場合、このタスクのいずれかを使って、ドメインの追加または削除を行います。

- [IM アドレス ドメインの追加または更新 \(9 ページ\)](#)
- [IM アドレス ドメインの削除 \(10 ページ\)](#)

IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定

この手順を使って、IM and Presence Service クラスタのデフォルト ドメインの値を設定します。DNS または非 DNS 展開が存在する場合、この手順を適用できます。

この手順では、IM and Presence Service のクラスタのデフォルトドメインだけを変更します。そのクラスタ内のすべての IM and Presence サービス ノードに関連付けられている DNS ドメインは変更されません。IM and Presence Service ノードの DNS ドメインを変更する方法の手順については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>の *Cisco Unified Communications Manager* および *IM and Presence Service* の IP アドレスおよびホスト名の変更を参照してください。



- (注) Cisco Unified Communications Manager に IM and Presence Service パブリッシャのノードを追加すると、デフォルトドメインが設定されます。ノードのインストール中、Cisco Unified Communications Manager からデフォルトドメイン値が取得できない場合、デフォルトドメイン値は「DOMAIN.NOT.SET (DOMAIN.NOT.SET)」にリセットされます。IM and Presence Service のデフォルトドメイン値を有効なドメイン値に変更するには、この手順を使用します。

始める前に

ハイアベイラビリティが無効になっていて、重要なIM and Presence Services が停止されていることを確認します。詳細は、[IM and Presence Services の無効化 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 IM and Presence Service のパブリッシャ ノードにログインします。
- ステップ 2 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で **プレゼンス > 設定 > 詳細設定** を選択します。
- ステップ 3 [デフォルトドメイン (Default Domain)] を選択します。
- ステップ 4 [ドメイン名 (Domain Name)] フィールドに、新しいプレゼンスドメインを入力し、[保存 (Save)] を選択します。

システムアップデートは完了まで最長で1時間かかる場合があります。アップデートに失敗すると、[再試行 (Re-try)] ボタンが表示されます。変更を再適用するには、[再試行 (Re-try)] をクリックします。または [取消 (Cancel)] をクリックします。

次のタスク

TLS XMPP 連携を使用している場合、[XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 \(11 ページ\)](#) に進みます。

IM アドレス ドメインの追加または更新

管理者管理のドメインをローカルクラスタ上に追加または編集することができます。別のクラスタに関連付けられたシステム管理ドメインまたは管理者によって管理されるドメインは編集できません。

システム管理ドメインが使用中であるため、編集できません。その IM アドレス ドメインのシステムにユーザが存在しない場合（たとえば、ユーザが削除された場合）、システム管理ドメインは自動的に管理者の管理ドメインになります。管理者の管理ドメインは編集または削除できません。

始める前に

ハイ アベイラビリティが無効になっていて、重要な IM and Presence Services が停止されていることを確認します。詳しくは [IM and Presence Services の無効化](#)（6 ページ）

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス > > ドメイン**を選択します。

すべての管理者の管理 IM アドレス ドメインとシステム管理 IM アドレス ドメインを表示する [ドメインの検索と一覧 (Find and List Domains)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- [新規追加 (Add New)] をクリックすることで、新しいドメインを追加します。[ドメイン (Domains)] ウィンドウが表示されます。
- ドメインのリストから編集するドメインを選択します。[ドメイン (Domains)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 最大 255 文字の一意なドメイン名を [ドメイン名 (Domain Name)] フィールドに入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

各ドメイン名は、クラスタ内で一意である必要があります。指定できる値は、すべての大文字または小文字 (a-zA-Z)、すべての番号 (0-9)、ハイフン (-)、またはドット (.) です。ドメイン ラベルの区切り文字はドットです。ドメイン ラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベル（たとえば、.com）の先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、Abc.1om は無効なドメインです。

次のタスク

TLS XMPP 連携を使用している場合、[XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成](#)（11 ページ）に進みます。

IM アドレス ドメインの削除

Cisco Unified CM IM and Presence の管理 GUI を使用して、ローカルクラスタにある管理者の管理 IM アドレス ドメインを削除できます。

システム管理のドメインは使用中であるため、削除できません。その IM アドレス ドメインのシステムにユーザが存在しない場合（たとえば、ユーザが削除された場合）、システム管理ドメインは自動的に管理者の管理ドメインになります。管理者の管理ドメインは編集または削除できます。



(注) ローカルクラスタとピアクラスタの両方に設定された管理者の管理ドメインを削除すると、ドメインは管理者の管理ドメインのリストに保持されます。ただし、そのドメインはピアクラスタでのみ設定済みとマークされます。完全にエントリを削除するには、設定されたすべてのクラスタからドメインを削除する必要があります。

始める前に

ハイアベイラビリティが無効になっていて、重要な IM and Presence Services が停止されていることを確認します。詳細は、[IM and Presence Services の無効化（6 ページ）](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス > ドメイン** を選択します。

すべての管理者管理の IM アドレス ドメインおよびシステム管理 IM アドレス ドメインを表示する **ドメインの検索/一覧表示** ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の方法の 1 つを使用して削除する管理者の管理ドメインを選択し、次に [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

- 削除するドメインの横のチェックボックスをオンにします。
- 管理者の管理ドメインのリストのドメインをすべて選択するには、[すべてを選択 (Select All)] をクリックします。

ヒント すべての選択をクリアするには、[すべてをクリア (Clear All)] をクリックします。

ステップ 3 [OK] をクリックして削除を確定するか、[取消 (Cancel)] をクリックします。

次のタスク

TLS XMPP 連携を使用している場合、[XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成（11 ページ）](#) に進みます。

XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成

IM ドメインに変更を加えたら、XMPP クライアントまたは TLS 証明書を再生成する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence OS 管理で、セキュリティ > 証明書管理を選択します。
- ステップ 2 検索をクリックして、証明書の一覧を開きます。
- ステップ 3 cup-xmpp-s2s証明書をクリックします。
- ステップ 4 証明書の詳細ウィンドウで、再生成をクリックします。

IM and Presence Services の起動

デフォルト ドメインに変更を加えた後、この手順で、すべてのクラスタ ノード上で IM and Presence サービスを再起動します。

始める前に

[XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 \(11 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。
 - Cisco Client Profile Agent
 - Cisco Sync Agent
 - Cisco XCP Router
- ステップ 4 [再起動 (Restart)] をクリックします。
- ステップ 5 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。
 - Cisco SIP Proxy
 - Cisco Presence Engine

ステップ7 [保存 (Save)]をクリックします。

次のタスク

[プレゼンス冗長グループに対するハイアベイラビリティの有効化 \(12 ページ\)](#)

プレゼンス冗長グループに対するハイアベイラビリティの有効化

デフォルトドメインを変更し、IM and Presence サービスを再起動した後で、プレゼンス冗長グループのハイアベイラビリティを有効にすることができます。

始める前に

ハイアベイラビリティを有効化する前に、すべてのサービスが IM and Presence データベースパブリッシャ ノードおよびサブスクリバ ノードで稼働していなければなりません。サービスが再起動してから30分以内の場合は、ハイアベイラビリティを有効にする前に Cisco Jabber セッションが再作成されたことを確認します。十分な時間を確保しない場合、セッションが作成されていない Jabber クライアントでプレゼンスは機能しません。

Cisco Jabber セッションの数を取得するには、すべてのクラスタ ノードで `show perf query counter "Cisco Presence Engine" Active JsmSessions` CLI コマンドを実行します。アクティブセッションの数は、ハイアベイラビリティを無効にした際に記録したユーザ数と一致するはずです。

次の段階で、パブリッシャとサブスクリバの両方でパフォーマンスカウンタ「Cisco Presence Engine」の `ActiveJsmSessions` を監視するには、Cisco Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用する必要があります。

- パブリッシャまたはサブスクリバを再起動した後
- Cisco XCP Router を再起動した後
- Cisco Presence Engine を再起動した後

高可用性を有効にする前に、「Cisco Presence Engine」の `ActiveJsmSessions` の数が、ノードに割り当てられたユーザの数と同じである必要があることを確認してください。



(注) ユーザの `ActiveJsmSessions` 作成の進行が完了した後にのみ、高可用性を有効にする必要があります。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] を選択します。

- ステップ2** 検索をクリックして、グループを選択します。
プレゼンス冗長グループの設定 ウィンドウが表示されます。
- ステップ3** ハイアベイラビリティの有効化のチェックボックスをチェックします。
- ステップ4** [保存 (Save)]をクリックします。
- ステップ5** この手順を、各プレゼンス冗長グループに対して繰り返します。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。